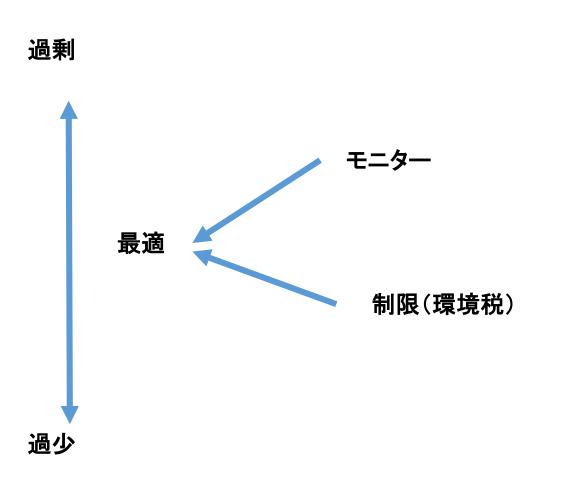
持続可能な観光業モニタリング

チームB

環境持続可能性は階層構造を持つ

- ・環境資源・景観資源・生産物資源などのレベル
- 宿泊・移動など受け入れシステムのキャパシティーレベル
- サービスする人的対応キャパシティーのレベル

モニタリングと制限による持続可能性



例:シンガポールの都市部の通行税

※観光資源の維持と 経済価値の向上にコンフリクトがある ⇒そのことが持続可能性に疑問を 投げかけている

例:岐阜県白川郷

環境資源・景観資源負荷のモニタリング

- 地元特産物の生産量と市場価格
- ・水質の汚濁
- ・植生の変化による自然破壊度
- 残留ゴミの量
- サンゴの観測・・水深が浅ければわかる・・死ぬとわかる
- ・ 夜間光の度合
- 温度上昇• 富良野
- ・空家の存在

これらを総合的に加味した

「環境負荷指標」=持続可能性指標を作成し環境税に反映

地域負荷・人的負荷のモニタリング

- •環境客数/環境資源該当エリアメッシュあたりの人口=サービス負荷
- ・シーズン生産性の違い=繁忙期/閑散期(来客数の差)
 - =産業の観光立地で生活できる持続可能性
- SNSの評判・サービス負荷の結果(顧客評価持続可能性)

これらを・・宿泊、移動、物品販売など人が観光客に対応する人的対応 負荷の指標としてモニタリングし、一定を超えたらサービス対応量に制 限をかけるようサービス環境税を付加